

## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州

## 3. グジャラート州

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

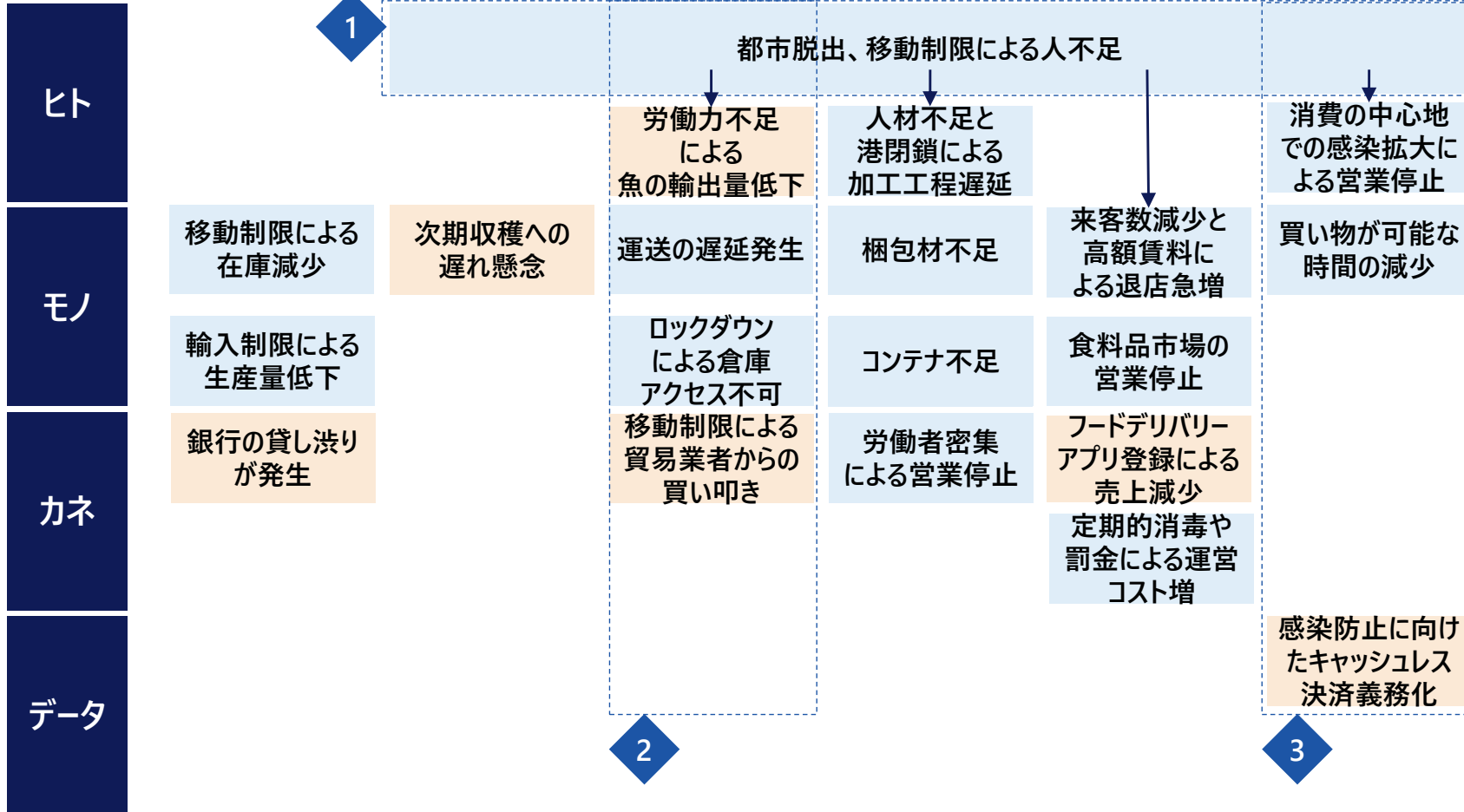
[補足] 全国

令和2年度海外農業・貿易投資環境調査分析委託事業（COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（南アジア）  
 マンスリーレポート2020年10月【インド（グジャラート州）】  
 （NRI調べ）

報告内容	目次	サマリ
1. 概況	感染者状況	感染者：175,471人、死亡者：3,731名（COVIDIndia調べ、11/3日時点）
	渡航/入国制限状況	アムダバード空港発着の国際線が限定的に再開（特定国に限定された措置）（10/25時点）
	各種制限緩和の動き	州内・州間の物資輸送制限撤廃。物理的距離を保つガイドライン遵守を条件に商業活動再開。レストランは11時まで営業可能。公共交通再開。200人までの集会在可能（10/25時点）
2. COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	エビの種子の輸入が滞り、エビの生産量が減少する可能性
	主要な食品の消費量	次回報告時に更新
	主要な農産物・食品の輸出入量	輸入  輸出  ヒマシ油の輸出量減少が発生
	Eコマースによる取扱量	次回報告時に更新
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	次回報告時に更新
	消費者マインド	飲食は消費者支出の27%を占める。2030年までの年平均7.3%で成長しシェアは徐々に減少見込
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材	ロックダウンによるサプライチェーン遮断/混乱、経済先行き/与信不透明さによる銀行の貸し渋りを背景に、農家は各種農業資材（肥料、種子）、運転資金へのアクセス不可に直面
	農業生産	播種期という大事な時期に農業資材の不足に加え、労働力の不足にも直面
	保管・輸送	検問による運送遅延、労働者不足による港湾業務の遅延、倉庫閉鎖等により輸送時間・取扱量に大幅な制限が発生。困難に直面する農家に付け込んだ買い叩きも発生
	加工	労働力不足、包装資材不足、操業停止措置等の課題に直面
	卸・小売	政府による市場・店舗閉鎖、遠のく客足、高額な店舗賃料が小売・飲食店にとって苦難に
	消費	政府は主要都市での感染拡大を受け、店舗閉鎖を命令。5/15以降、食品・雑貨の配送サービスにおけるキャッシュレス決済を義務化。早期移行が難しい人々への影響が懸念
	政府の支援策	パンデミック期間中、州政府は農家の市場販売を容易にするための改革や、外部ショックに脆弱な人々への食料支援を実施
4. 現地FVC再構築に向けた最新動向調査	民間企業の事業動向	他州の酪農家が低価格での製品販売を余儀なくされる中、グジャラート州の代表的酪農ブランドAmulはパンデミックにも耐性を持つ強固なサプライチェーンを保有することを証明
	第3国(企業)・国際組織の動向	州の農家に対しより良い価格で、全国大の販売機会をもたらすプラットフォームをAmazon Freshが提供

FVC上の課題

■ 顕在課題    ■ 潜在課題\*



- 1 VC各段階の課題が人不足に起因
- 2 輸出入を含む物流の遅延が風上/風下の課題を誘発している可能性
- 3 COVID-19への不安に対応した購買行動変化

\*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題

# インドご報告内容 & サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

## 発生した課題への対応事例は下記の通り



### 課題対応の方向性

#### 課題整理フレームワーク

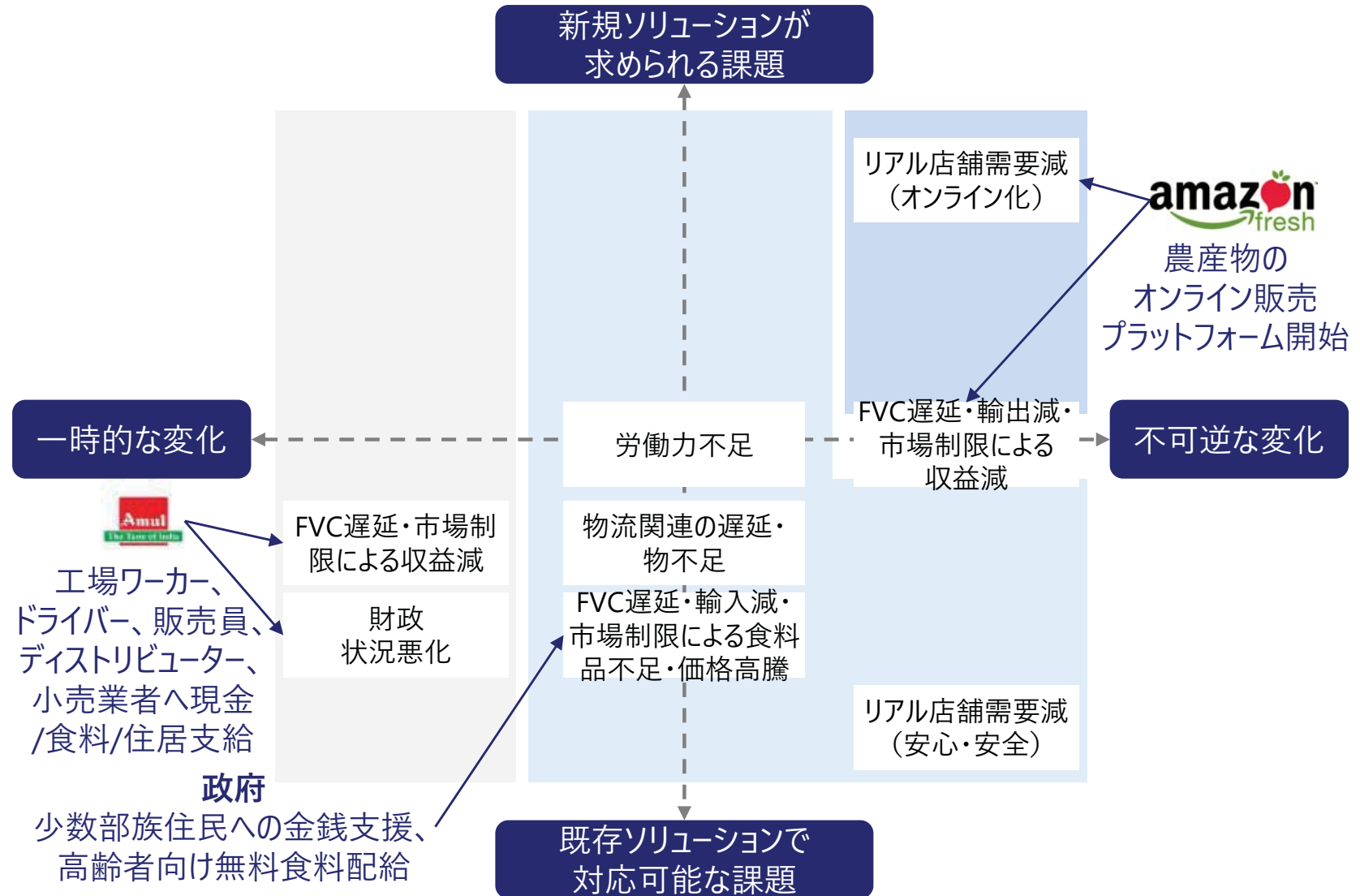
##### ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—  
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸—  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

##### ②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応



## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州

## 3. グジャラート州

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

[補足] 全国

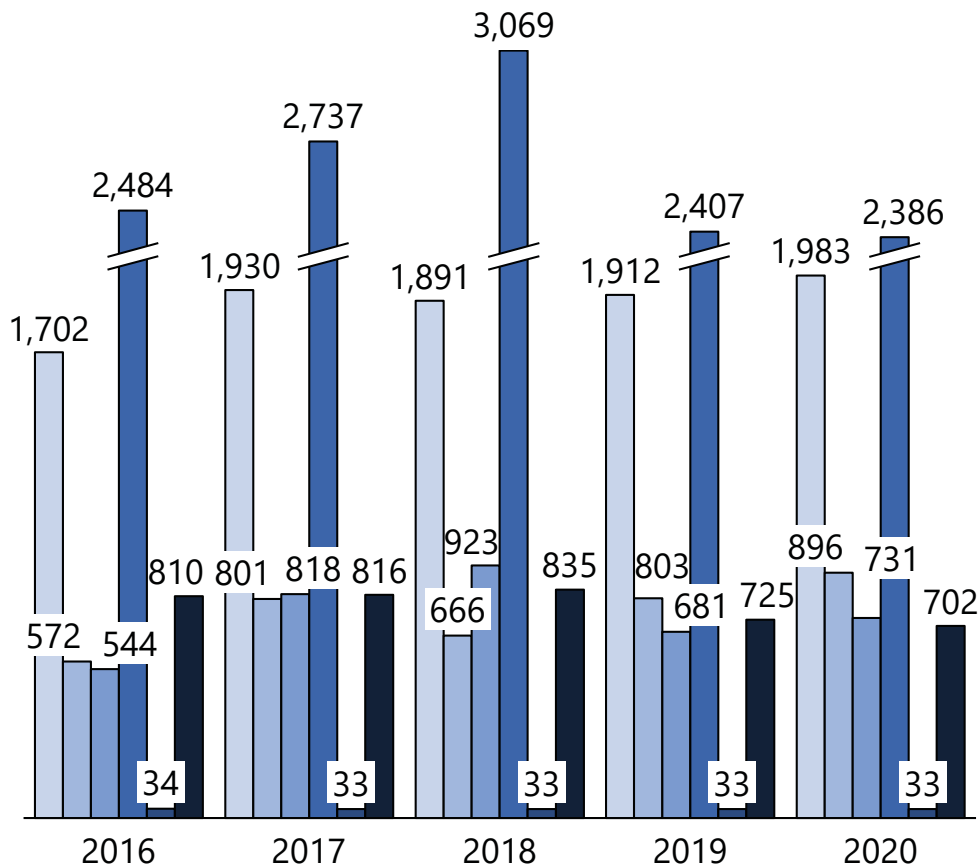
## 生産量 | 悪天候と水不足の影響で小麦と豆類の生産量が減少

## COVID-19によりエビの種子の輸入が滞り、エビの生産量が減少する可能性

主要農林水産物の生産量推移（グジャラート州）, 2016-2020（千トン）

米 トウモロコシ 豆 小麦 家禽肉 魚介

### 主なトレンド／特性



#### 悪天候と水不足が穀物栽培へ影響

- 悪天候（モンスーン影響）と河川水の不足により、2018年から小麦と豆類の生産量は減少
- 水不足の影響で高付加価値作物である綿花、果物、野菜などの栽培へシフトする農家が出現

#### 低い食肉生産

- 食肉の生産量はインド36州のうち22位

#### 牛肉生産の禁止

- 牛肉の生産は、グジャラート動物保護法により禁止。スラット、アフメダバード等州内の都市で牛肉の違法食肉処理が横行

#### 魚の生産は養殖中心

- 魚の生産量は国内第5位
- テラピア養殖、淡水エビ養殖、外洋ケージ養殖を実施

### COVID-19による影響

#### 生産量の低下

- ロックダウンにて移動が制限された影響で作物の収穫が遅れ、収穫量が減少
- 移動制限によりエビの種子を貯蔵期間中に輸入できなかったため、内陸の養殖場を中心にエビの生産量は16,000~18,000トン減少する可能性

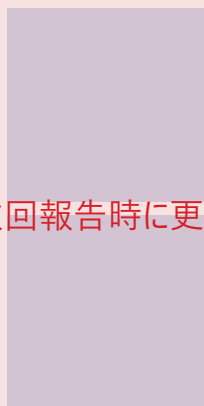
Note: 2020年は推定値

主要農林水産物の消費量推移（グジャラート州）, 2016-2020（千トン）

主なトレンド／特性



次回報告時に更新



COVID-19による影響

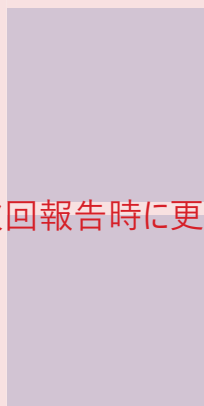


主要農林水産物の輸入量推移（グジャラート州）, 2016-2020（千トン）

主なトレンド／特性



次回報告時に更新



COVID-19による影響



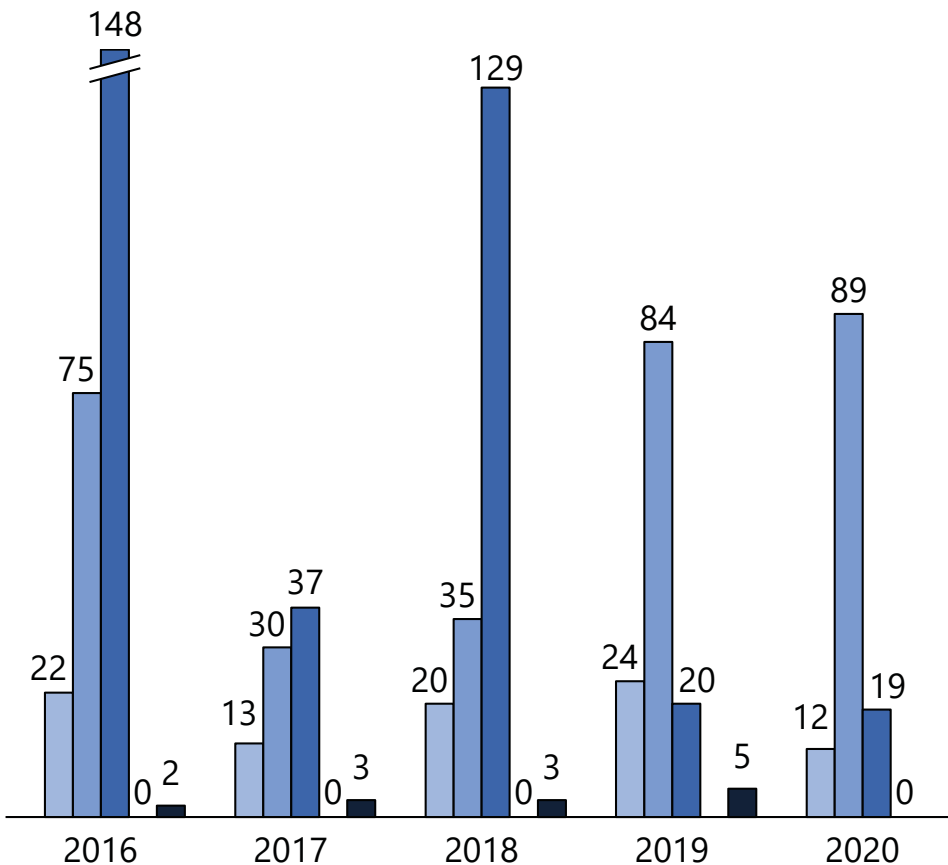


# 輸出量 | 豆類の輸出規制解除の影響で豆類の輸出量が増加 COVID-19の影響でヒマシ油の輸出量減少が発生

主要農林水産物の輸出量推移（グジャラート州）, 2016-2020（千トン）

米 トウモロコシ 豆 小麦 家禽肉 魚介

## 主なトレンド／特性



小麦生産減による輸出減

- 小麦の輸出量は生産の減少（悪天候と水不足の影響）に伴い減少

豆類輸出規制解除に伴う輸出増

- 国内の豆価格の上昇により豆の輸出を規制していたが、2017年、豆の豊作と前年の輸入余りの影響で豆の価格が低下。政府は豆の輸出規制を解除したため2018年以降の輸出量が増加

肉：輸出無

- 生産量が少ないため、輸出はほぼ無（肉：輸出なし(0トン)、もしくはデータなし）

魚介：欧米向け輸出

- マナガツオ、イシナギ、エビ、ロブスターなどを米国、ヨーロッパ、UAE、オーストラリア等へ輸出

## COVID-19による影響

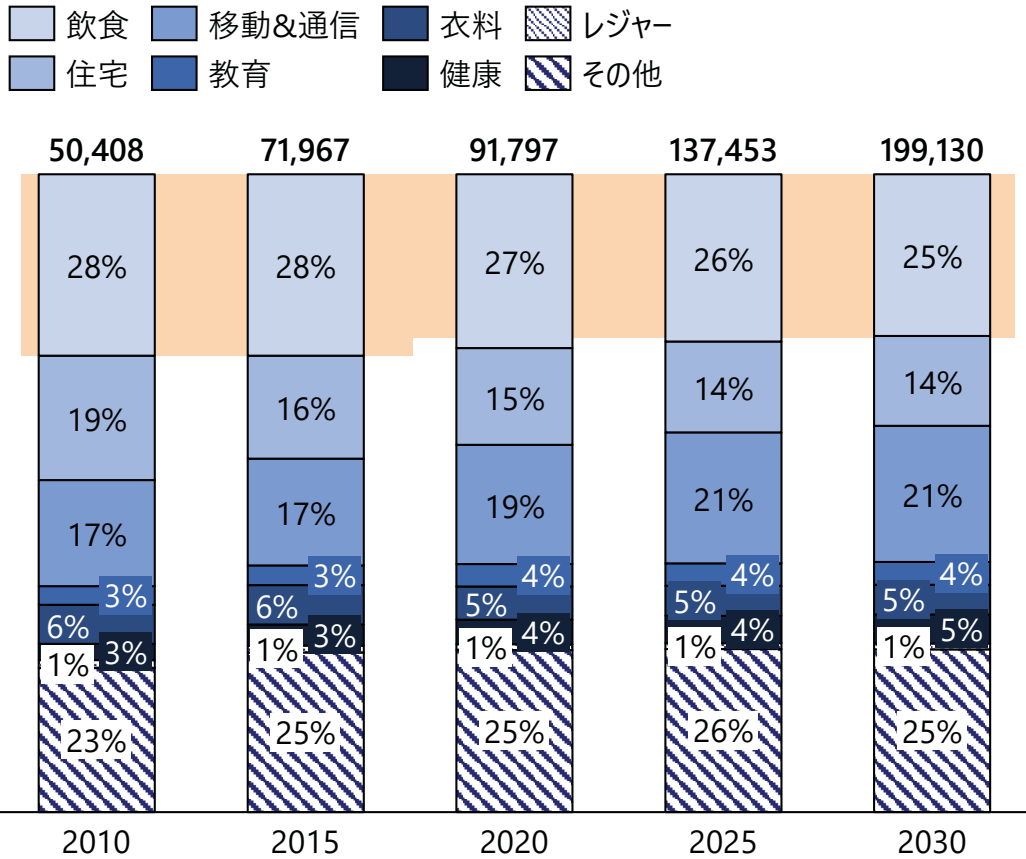
農作物、魚介類の輸出減少

- ヨーロッパ経済の悪化によりヒマシ油の輸出が35%減少
- エビは種子の輸入が滞ったことによる生産量減少が予測されており、輸出も将来的に約94万ドル減少する可能性

Note: 米の輸出に関するデータは入手不可

# 飲食への消費者支出は全体の約27%。2030年まで飲食のシェアは徐々に減少見込 COVID-19の影響で食品加工産業では包装材料の入手困難が発生

## 消費者支出内訳 (百万ドル)



- 飲食は消費者支出に占める割合が27%（2020年）と最も大きいですが、2010年から20年にかけて、約1%減少
- 2020年から30年にかけての年平均予想成長率は、消費支出全体が8.1%、飲食に関する支出は7.2%

## 主要な消費者トレンド (赤色はCOVIDによる影響)

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ グジャラート州はインドで最も発展した工業都市の一つ</li> <li>▪ 牛乳協同組合による牛乳革命（牛乳不足から世界最大の牛乳生産国に変革するきっかけとなった運動）の発祥地</li> </ul>
食品加工産業が盛ん	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ インドの食品加工部門で最大のシェアを占有</li> <li>▪ Parle、Vadilal、Rasna等、有名インド食品ブランドの本社が立地</li> <li>▪ 移民労働者の流出により製造能力が低下、輸送制限で包装材料が入手困難に</li> </ul>
モダンなレストランへの人気の高まり	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ モダンな外食レストランは成長セクターの一つであり、州の都市化を牽引</li> <li>▪ ホテルのレストランでは営業停止を強いられスタッフを解雇</li> </ul>
健康志向	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 若者世代における健康意識の高まり</li> </ul>
グローバルレストラン需要の高まり	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 食体験を目的とした旅行需要の高まり</li> <li>▪ 州内ではアジア料理特に日本料理の人気の急上昇</li> </ul>

## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州

## 3. グジャラート州

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

## 2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

[補足] 全国

## COVID-19により顕在化したFVCの課題 | グジャラート

ロックダウンによるサプライチェーン遮断/混乱、経済先行き/与信不透明さによる銀行の貸し渋りを背景に、農家は各種農業資材（肥料、種子）、運転資金へのアクセス不可に直面



## トピック

## 課題

## 内容

  顕在課題

  潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

## 肥料供給



① ②

移動制限による  
在庫減少

- 移動制限により、輸入尿素などの肥料の供給が遮断
- 在庫が限られ、ロックダウンにより高品質の種子も調達が困難

## 飼料供給



①

輸入制限による  
生産量低下

- ロックダウンにより、輸入に頼っていたエビの親魚の仕入れが遮断
- 種エビが入手できず、州内の養殖場の約60%は非稼働
- 2019年に約45,000トンであったエビの生産量は、2020年には40%減少する見込み

クレジット/融資  
へのアクセス

① ③

銀行の貸し渋りが発生

- 銀行は将来の不確実性を理由に農家への貸付に慎重。農家への貸し渋りが発生
- そのため、農家が現金取得のため低い価格で委託業者に販売する可能性

## COVID-19 により顕在化したFVC の課題 | グジャラート

## 播種期という大事な時期に農業資材の不足に加え、労働力の不足にも直面



## トピック

## 課題

## 内容

  顕在課題

  潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

## 農業生産



①

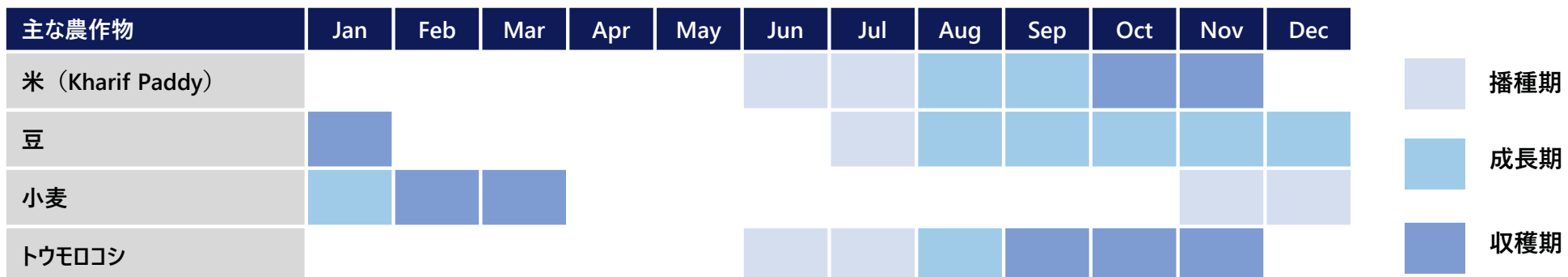
労働力不足

- COVID-19の感染リスク軽減のため、労働者の雇用を削減。農作物の収穫は家族で協力
- また、収入面でも農作物の売れ行きを懸念し、労働者の雇用に非積極的

②





次期収穫の遅れ

- 一部の作物では、次期収穫期に遅れが生じる可能性



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題 | グジャラート

ロジスティクス面では、検問による運送遅延、労働者不足による港湾業務の遅延、倉庫閉鎖等により輸送時間・取扱量に大幅な制限が発生。困難に直面する農家に付け込んだ買い叩きも発生

トピック	課題	内容
農産物輸送 	2 運送の遅延発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府は生活必需品(essential)・非必需品(non-essential)商品を運ぶ輸送車両の移動を許可</li> <li>ドライバーや車両が不足していることや、移動許可証明（ロックダウンパス）を持っていても警察官に検問所で引き留められ移動が許可されないことが原因で、実際の貨物の運送では遅延が発生</li> </ul>
水産業 	1 2 労働力不足による魚の輸出量の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウンにより魚粉工場が閉鎖。漁師は工場に漁獲物を販売不可</li> <li>労働者不足により、港での魚の積み下ろし、在庫や氷の輸送などの作業が滞り輸出で約30%の損失が出る見込み</li> </ul>
倉庫の閉鎖 	2 ロックダウンによる倉庫アクセス不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウンにより政府は3月末目で倉庫を閉鎖</li> <li>売り手側は商品を取りに行けない、買い手側は購入した商品を保管する場所がない、などの問題が発生</li> </ul>
業者による買い叩き 	2 3 移動制限による貿易業者からの買い叩き	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易業者は、ロックダウンにより農家が農作物を市場に持ち込めない状況を悪用し、農民に低価格を提示</li> <li>農家が次シーズンの播種・耕作に必要な各種資材を揃えるべく、是が非でも現金を確保しなければならないという状況に付け込んだもの</li> </ul>



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題 | グジャラート

### 加工現場では、労働力不足、包装資材不足、操業停止措置等の課題に直面

#### トピック

#### 課題

#### 内容

■ 顕在課題

■ 潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

#### たまねぎ加工



②

人材不足と港閉鎖による加工工程遅延

- バーヴナガル（Bhavnagar）地区周辺には玉ねぎ加工工場が複数存在
- ロックダウン第一期では輸送の労働力不足、実験室でのサンプラーと技術者不足と港での貨物の遅延が発生

#### 包装



②

梱包材不足

- 梱包材はロックダウン時に重要な非必須(Key non-essentials)に分類
- 梱包材不足

#### 港湾



②

コンテナ不足

- 内陸のコンテナデポは、港が閉鎖されている、もしくは限られた容量で稼働しているため利用不可
- ピパバフ港のコンテナ貨物は、複数のエージェントと連携が必要で輸出が遅延

#### Khakhra 生産



② ③

労働者密集による営業停止

- 'Khakhra'はグジャラートの特産品で、小麦粉の薄いクラッカー
- 生産現場が密集状態であり、社会的距離を取ることが難しいことから、'Khakhra'は生活必需品（essential）に分類されず

## COVID-19により顕在化したFVCの課題 | グジャラート

## 政府による市場・店舗閉鎖、遠のく客足、高額な店舗賃料が小売・飲食店にとって苦難に



## トピック

## 課題

## 内容

  顕在課題

  潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

市場の  
営業停止措置

②

食料品市場の  
営業停止

- Ahmadabadなどの主要都市では感染数が多いため、政府は果物、野菜、食料品を提供する市内のすべての店舗と市場を閉鎖
- ロックダウン後の数ヶ月の間、牛乳屋と薬局のみ開店

## 飲食店



②

来客数の減少、高額  
賃料のダブルパンチに  
よる退店急増

- 外食への来客数が激減。高額な賃料も負担になり、多くの地場・外資レストランチェーンが退去。40億INR以上の損失が発生
- レストランではウッタル・プラデシュ州、ビハール州、マディヤプラデーシュ州、オリッサ州から来ている労働者の規制により労働力不足が発生

## 追加コスト



③

定期的消毒や罰金  
による運営コスト増

- 店舗やレストランのオーナーには社会的距離、営業時間、などの規則に従わなかった場合の罰則が存在

## Eコマース



② ③

フードデリバリーアプリ  
登録による売上減少

- Navsari市のホテル & レストラン協会は、“Zomato”や“Swiggy”などのオンライン（アプリベース）デリバリーサービス企業への掲載を中止することを決定
- デリバリー企業が需要喚起のためのディスカウント原資を得るため、ホテル・レストラン側に課す手数料を引き上げているとクレーム。手数料の引き上げは既に収益上の課題に直面する店舗サイドを更に苦しめることにつながると指摘



## COVID-19により顕在化したFVCの課題 | グジャラート

## 政府は主要都市での感染拡大を受け、店舗閉鎖を命令。5/15以降、食品・雑貨の配送サービスにおけるキャッシュレス決済を義務化。早期移行が難しい人々への影響が懸念



## トピック

## 課題

## 決済



**2** **4**  
感染防止に向けた  
キャッシュレス決済  
義務化の是非  
(利用できない人々  
への弊害)

夜間外出  
禁止令

**2**  
買い物が可能な  
時間の減少

## 店舗閉鎖



**1** **2** **3**  
消費の中心地で  
感染拡大⇒営業  
停止措置

## 内容

■ 顕在課題

■ 潜在課題

課題分類 **1** ヒト

**2** モノ

**3** カネ

**4** データ

- Ahmedabad等の主要な地区の政府は、5月15日以降、食料品および食品配送サービスにおける代引オプションを禁止。感染は紙幣を通じても広がりうるとし、キャッシュレス決済を義務化
- 食料品、野菜、牛乳17,000余りの小売店でキャッシュレス決済を普及させるために、行政側は専門チームを店舗に派遣。キャッシュレス取引の重要性を説明
- しかしながら、高齢者やスマートフォン未保有者（低所得者層）のように現金決済依存の人々も多数いることから、キャッシュレス決済の義務化の是非は論争を惹起

- ロックダウン最初の数か月間、食品含む必需品取扱店は午後7時以降営業不可に
- 消費者が買い物に費やせる時間帯が減少

- 州内の4つの主要都市でCOVID-19の感染拡大
- 州政府は4都市で2か月間にわたり店舗営業を禁止
- 4都市の店舗数は州全体の50%以上を占めるため影響は甚大

都市名	全店舗数
Ahmedabad	280,564
Surat	247,174
Vadodara	78,587
Rajkot	52,923
<b>4都市合計</b>	<b>659,248</b>
全地域	982,297

## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州

## 3. グジャラート州

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

[補足] 全国



# 現地FVC 再構築に向けた最新動向

## 各種制限 / ロックダウンの緩和

### COVID-19感染拡大による制限

### 現在の状況（10/25現在）

個人	国内旅行 (全国共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3/25、国内線航空便を停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/25より国内線再開</li> <li>6/1より州間移動が可能に</li> </ul>
	海外旅行 (全国共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際線運航停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アムダバード空港発着の国際線が限定的に再開 (エアバブルに伴う特定国に限定された措置)</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>3/25から21日間、インド全土でロックダウンを発令 (その後5/30まで数次にわたり延長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>200人までの集会が可能に</li> </ul>
事業	農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>州間移動制限による労働者の移動制限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的距離を保つガイドラインの遵守を条件に農業活動が再開。労働者の移動に関する制限はなし</li> </ul>
	ロジスティクス (含.輸出入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>州政府からの許可証取得を条件に、食料品等必需品の輸送が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>州内・州間の物資輸送に関する制限撤廃</li> </ul>
	製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての工場が操業停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的距離を保つガイドラインの遵守を条件に全ての工場活動が再開</li> </ul>
	小売 / 飲食店	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店での食事が禁止に</li> <li>3/25、公共交通機関の停止、生活必需品・サービスを除く店舗・商業施設・サービス等の活動を凍結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストランは11時まで営業可能</li> <li>公共交通やその他の商業活動が安全ガイドラインの導入と共に再開</li> </ul>



## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

# パンデミック期間中、州政府は農家の市場販売を容易にするための改革や、外部ショックに脆弱な人々への食料支援を実施

対象	イニシアティブ / 政策	概要	インパクト
農民	農業生産市場委員会の競りにおける出品手段の容易化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウン期間中、農産品の輸送が極めて困難に</li> <li>農業生産市場委員会（APMC*）の取引市場で販売する場合、販売農産物のサンプルのみで競りに出品できるように変更</li> <li>競りの後、農家と買い手の間で農産品の輸送に関して相互で取り決め</li> </ul>	生産 農家の農産品販売をより容易に
農家 & 民間トレーダー	農産品取引市場の設置に関する規制緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>グジャラート農業生産市場規則2020（Gujarat Agricultural Produce Markets Ordinance 2020）を改正。サイロや冷蔵貯蔵庫等において、農家または民間事業者が民間農産品取引所を開設可能に</li> <li>民間事業者（買い手）は農家に対して競争的な価格を提示可能に。農家側も地区外に自分の農産品を販売可能に</li> </ul>	生産・流通 農家側に課せられていた様々な販売制約を撤廃（取引所での取引に課せられる税金、農産品を販売先の制限）
消費者	少数部族住民への金銭支援、高齢者向け無料食料配給	<ul style="list-style-type: none"> <li>州政府が州内6つの少数部族地区の国家食料安保法カード（National Food Security Act Card）保有者各人のアカウントに1,000ルピー（約13ドル）ずつ支給</li> <li>単身高齢者世帯に対するTiffinサービス（Tiffinは昼食の意）がロックダウン期間中遮断。州政府がボランティア組織と提携し、緊急時ヘルプライン回線の設置、食料の戸別配送を実施</li> </ul>	消費 外部ショックに脆弱な人々に対する食料安保の確保

Note\*: APMC（農業生産市場委員会）農産品・畜産品を規制する州政府傘下の組織

Source: News Reports

## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

# 他州の酪農家が低価格での製品販売を余儀なくされる中、グジャラート州の代表的酪農ブランドAmulはパンデミックにも耐性を持つ強固なサプライチェーンを保有することを証明

## Amul / グジャラートミルクマーケティング協同組合連合（GCMMF）のパンデミックへの対応策

農業資材

農業生産

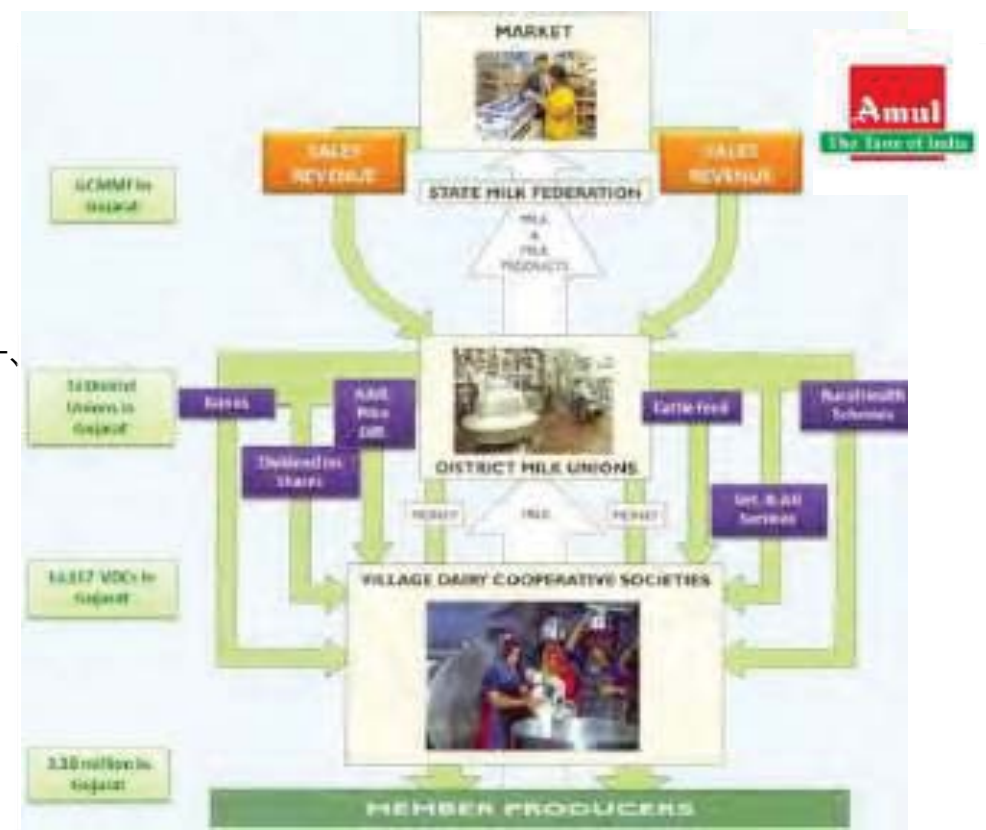
保管&amp;運送

加工

卸・小売

消費

- グジャラートミルクマーケティング協同組合連合（GCMMF）はAmulブランドで乳製品を販売（360万戸の農家が加盟）
- Amul / GCMMFはロックダウンが発令される1週間前から消毒プロトコル、村落内におけるソーシャル・ディスタンス・ルールを独自に導入
- 従業員の雇用や各種金銭・税務支援をカットした他の多くの企業とは異なり、Amul / GCMMFは従業員に対してオペレーション面、福利厚生面での手厚い支援を実施
  - ロックダウン発令後、酪農製品工場ワーカー、ドライバー、販売員、ディストリビューター、小売業者に対して現金支給を発表
  - 工場労働者（ワーカー）に対しては食料と住居を手配し、出稼ぎ労働者たちの帰郷による労働力不足を回避
  - ドライバーに対しても専用パスを発行し、ミルク配達後荷台が空になったトラックが検問を容易に通過できるよう配慮
  - 地区長官（District Collector）と連携し、包装資材の供給を担保。組合員農家に対して乳牛飼料がパンジャブ州、ハリヤナ州から安定供給されるように手配
  - 従業員に対するアールヴェーダ医薬品も支給
- グジャラート州のAmulは加盟酪農家へのフェア・プライスを提供するだけでなく、収入面でも+15増を実現。ウツタル・プラデシュ州やマハラシュトラ州では農業組合のネットワークが弱く、低価格での販売を余儀なくされたのとは対照的



Amul / GCMMFはサプライチェーンの寸断なくオペレーションを継続



## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

# グジャラート州の農家に対しより良い価格で、全国大の販売機会をもたらすプラットフォームを Amazon Freshが提供

## グジャラート州政府とAmazonによる農家のエンパワーメント活動

農業資材

農業生産

保管 &amp; 運送

加工

卸・小売

消費

- 農家が野菜と果実をオンラインで販売できるようにするべく州政府は Amazon Freshとの戦略的提携を検討中。Amazon社の配送網と Appインターフェースの活用が主目的
- 農家～農産物取引市場までの輸送コストは農家負担。都市部ではより高い販売価格が期待できるものの、輸送コストがネックになりアクセス不可
- Amazon Freshとの提携によりグジャラート州の青果品農家は全国規模のサプライチェーンの利用が可能に。デリー、Mumbai、Pune等の大都市への販売も可能に。更にAmazon社の効率的物流網の利用を通じて物流コストの削減も可能
- 州政府は品質の高い野菜・果物を生産する地区における農家の組織化（農業生産者組織 | FPO）に注力。品質の高い園芸作物のロット生産を可能にし、Amazon Freshの様な大規模企業と取引を活性化させるのが目的



सत्यमेव जयते  
GOVERNMENT OF GUJARAT

Amazon Freshとグジャラート州政府の戦略的提携

## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州
3. グジャラート州

### [補足] 全国

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州
3. グジャラート州

### [補足] 全国

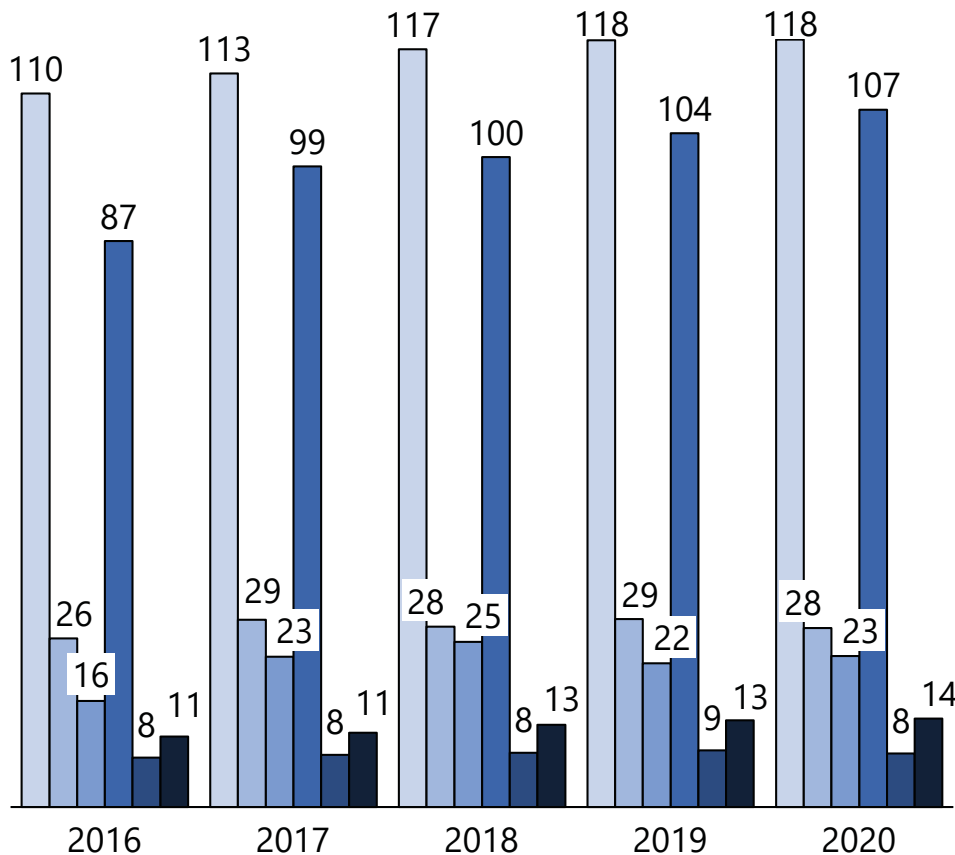
1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向



# 生産量 | インド（全国）では、各農林水産物の生産量は増加傾向 COVID-19の影響で米などの生産量が前年比割れする可能性

主要農林水産物の生産量推移, 2016-2020（百万トン）

米 トウモロコシ 豆 小麦 家禽肉 魚介



## 主なトレンド／特性

- 農作物生産の傾向**
  - 豆の生産は世界第1位、米、小麦の生産は世界第2位
  - 農家の70%以上が小規模農家で、国の緊急事態や市場の需要変動に敏感に反応
  - 稲作面積の約40%は灌漑されておらず、収穫量の多くは6月～9月の南西モンスーン期に依存
- 家畜の病気への対処**
  - 食肉生産では、家畜の病気や病気を広める可能性のある違法な食肉処理場の存在の対処が課題
- 不十分な漁業インフラ**
  - 漁業生産量は世界第3位、水産養殖生産量で世界第2位
  - 電力供給や冷蔵施設など、漁業インフラが不十分

## Changes due to COVID-19

- 生産量の低下**
  - 労働力不足で一部の米農家が生産を制限しており、米生産量の前年比割れ見込み
  - ロックダウン中に食肉処理場は、'essential service'と見なされず閉鎖したこと、輸送制限により飼料価格が上昇
  - 港や配送センターが完全封鎖され一時的に魚介類の生産が停止。その後政府が漁業をロックダウン対象外に

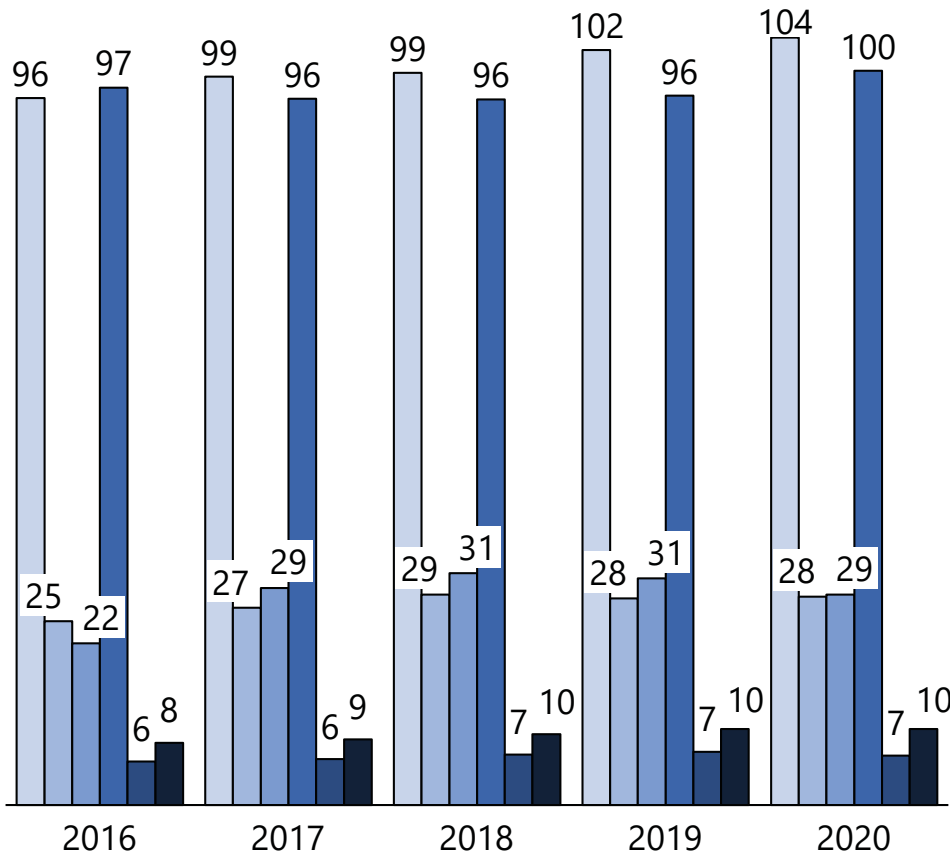
Note: データは暦年ではなく会計年度を利用

## 消費量 | インド（全国）では、人口増加と生産量増加に伴い消費も増加傾向

COVID-19と動物の関係性についてのデマが拡大し、一時的に消費者が肉の消費を忌避

主要農林水産物の消費量推移, 2016-2020（百万トン）

米 トウモロコシ 豆 小麦 家禽肉 魚介



### 主なトレンド／特性

#### 農作物消費の傾向

- 景気が後退しているが、主食である米の消費は成長増加する見通し
- 都市部で西洋ベーカリーへの関心が高まり小麦の消費を後押し
- 家畜の飼料としての需要がトウモロコシの消費を促進
- 季節外れの降雨で農作物が被害を受け価格が上昇し、豆類の消費量が減少

#### 宗教上の食肉制限

- 一人当たりの肉の消費量は年間4kgで、世界で最も低い
- 牛肉は宗教的理由で多くの州で消費が禁止されている。鶏肉は比較的安価で入手でき、宗教上の禁止も少ないことから広く消費

#### 魚の需要の増加

- 魚とエビの国内需要は、インドの人口増加と健康的志向の高まりによって推進
- 牛肉など他の肉に比べて安価で、魚の消費が増えると予想

### Changes due to COVID-19

#### 肉や魚の消費に慎重に

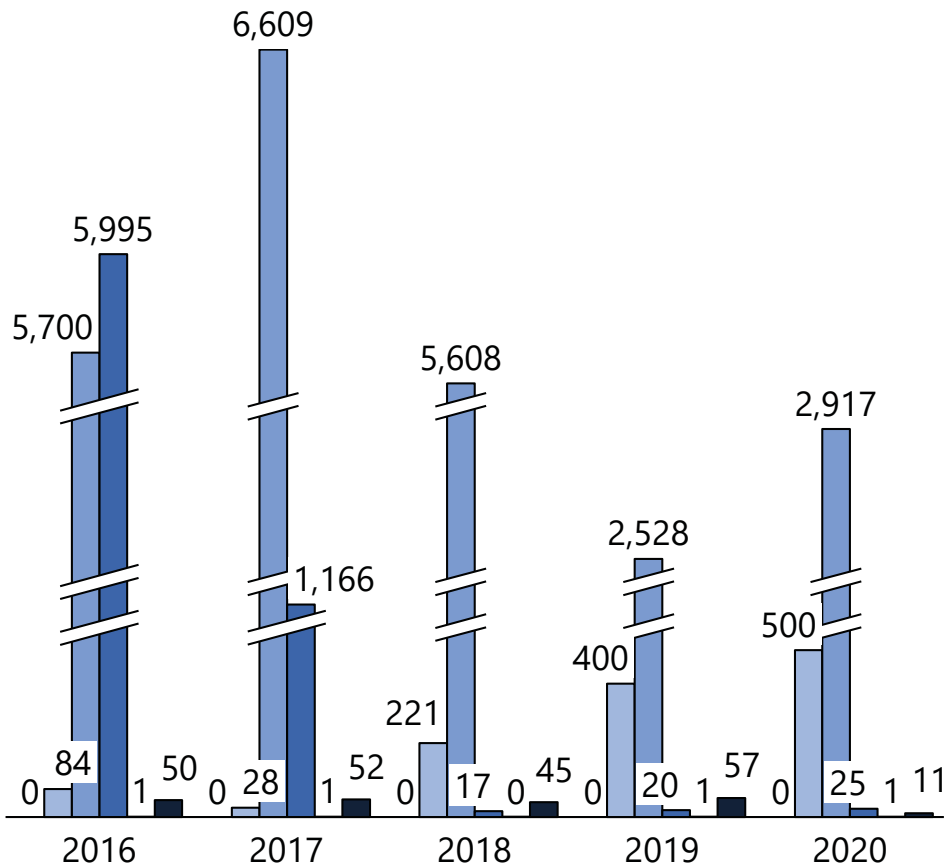
- 感染リスクを懸念した消費者が豚肉や鶏肉などの肉製品を忌避
- 魚市場では物理的な距離を取ることが難しく、消費者は安全な販売店での購入を志向

Note: データは暦年ではなく会計年度を利用

Source: Euromonitor, Ministry of Agriculture, Government of India, EMIS, US PSD database

主要農林水産物の輸入量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 小麦 家禽肉 魚介



主なトレンド／特性

主要輸入元

- 米：タイ、ロシア、スペイン（2019）
- トウモロコシ：ウクライナ、ミャンマー、南アフリカ（2019）
- 豆：カナダ、ミャンマー、タンザニア（2019）
- 肉：ベルギー、ニュージーランド、スペイン（2019）
- 魚介類：バングラデシュ、ベトナム、アメリカ（2018）

農作物輸入の傾向

- 政府は米、小麦、トウモロコシの国内消費を提唱。供給不足で国内価格が上昇すると輸入品に需要が流れるため輸入税を賦課
- 世第1位の豆類輸入国。政府はリョクトウ（豆類）の輸入割当量を25万トンに固定

牛肉の輸入禁止

- 多くの州で宗教的理由で牛の屠殺を禁止、牛肉の輸入も禁止
- 貿易法でも牛肉（牛肉、去勢牛、子牛肉）の輸出入は禁止

気候変動の影響

- バングラデシュ、日本、米国などから魚、冷蔵魚、飼料を輸入
- 気候変動による漁獲量の減少、輸入増加が長期的視点での懸念

Changes due to COVID-19

肉や魚の輸入量減少

- ロックダウンによりミャンマーからの豆類の輸入が遅延
- COVID-19の感染は肉や魚の消費に関連しているという噂が流布。肉と魚の輸入が短期的に減少するおそれ
- 非肉食主義向けのフードチェーンが閉鎖され、輸入が減少

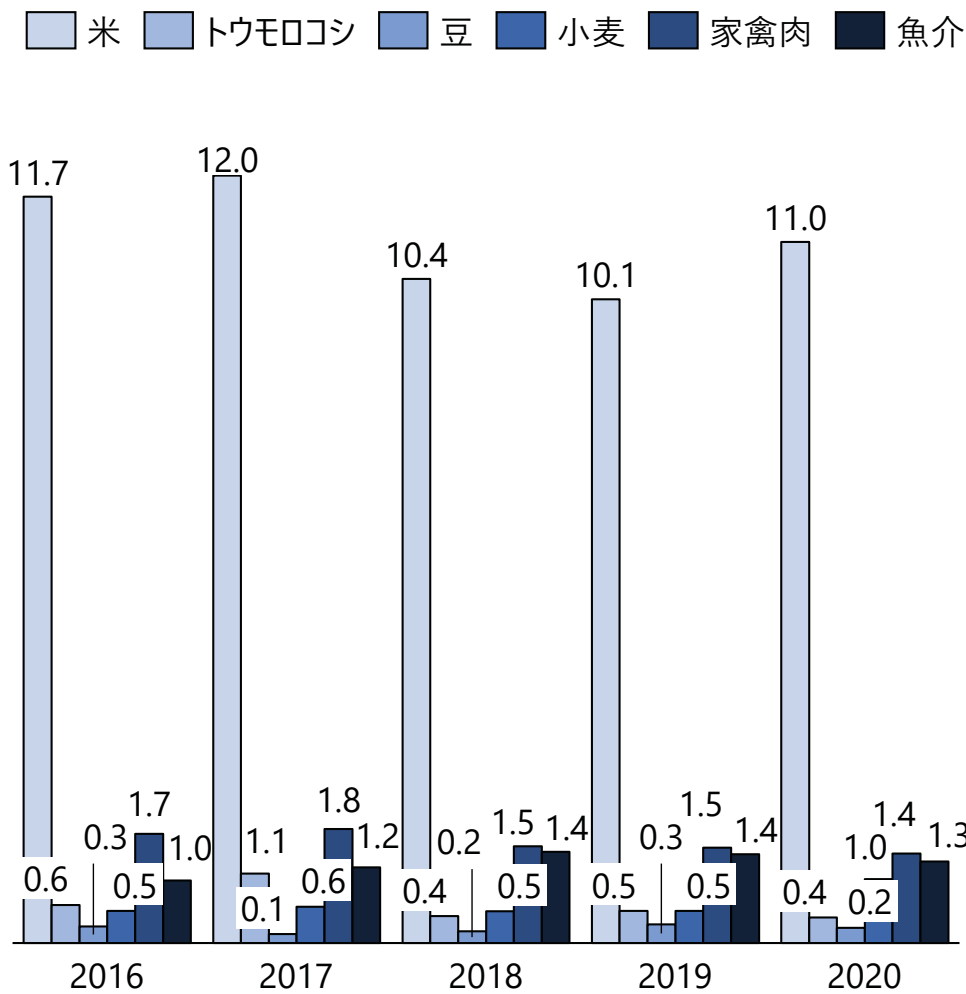
Note: データは暦年ではなく会計年度を利用

Source: Euromonitor, Ministry of Agriculture, Government of India, EMIS, US PSD database

# 輸出量 | インド（全国）は農作物、牛肉、漁業の主要輸出国

## COVID-19の影響で輸出の伸びの停滞が懸念

主要農林水産物の輸出量推移, 2016-2020 (百万トン)



### 主なトレンド／特性

- 主要輸出先**
  - 米：イラン、サウジアラビア、ベナン（2019）
  - トウモロコシ：ネパール、ブータン、ミャンマー（2019）
  - 豆：アルジェリア、スリランカ、アメリカ（2019）
  - 肉：ベトナム、マレーシア、エジプト（2019）
  - 魚介類：アメリカ、カナダ、日本（2018）
- 農産物輸出の傾向**
  - サハラ以南のアフリカと中東への米の主要な輸出国
  - 小麦の余剰が増加しているが、MSP(\*)が高いため世界市場における競争力がなく、輸出は低迷
- 食肉輸出の伸び悩み**
  - 牛肉の中国からの需要が減少し、ブラジルとオーストラリアとの競争も激化しており牛肉の新たな市場の開拓に苦心
  - 今後数年間、家禽肉の自給自足状態を維持するものの、輸出は伸びない見通し
- 魚介類の多様性**
  - 魚介類の種類が豊富（世界の魚介類製品の10%）、50種類以上の魚介類を世界75か国に輸出

### Changes due to COVID-19

- 農作物、魚介類の輸出減少**
  - ロックダウンにより農作物のマーケティングと輸送が制限され食品ロスが発生したこと、港がキャパシティを縮小したため輸出が減少
  - 魚の調達制限され、輸出販売がロックダウン中に減少。その後政府が漁業をロックダウン対象外に

Note: データは暦年ではなく会計年度を利用  
 Source: Euromonitor, Ministry of Agriculture, Government of India, EMIS, US PSD database

# COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

## 加工食品、冷凍食品、有機食品の生産と輸入



加工食品、冷凍食品、有機食品の生産（百万ドル）

加工食品、冷凍食品、有機食品の輸入（百万ドル）

次回報告時に更新

- aaa

- aaa

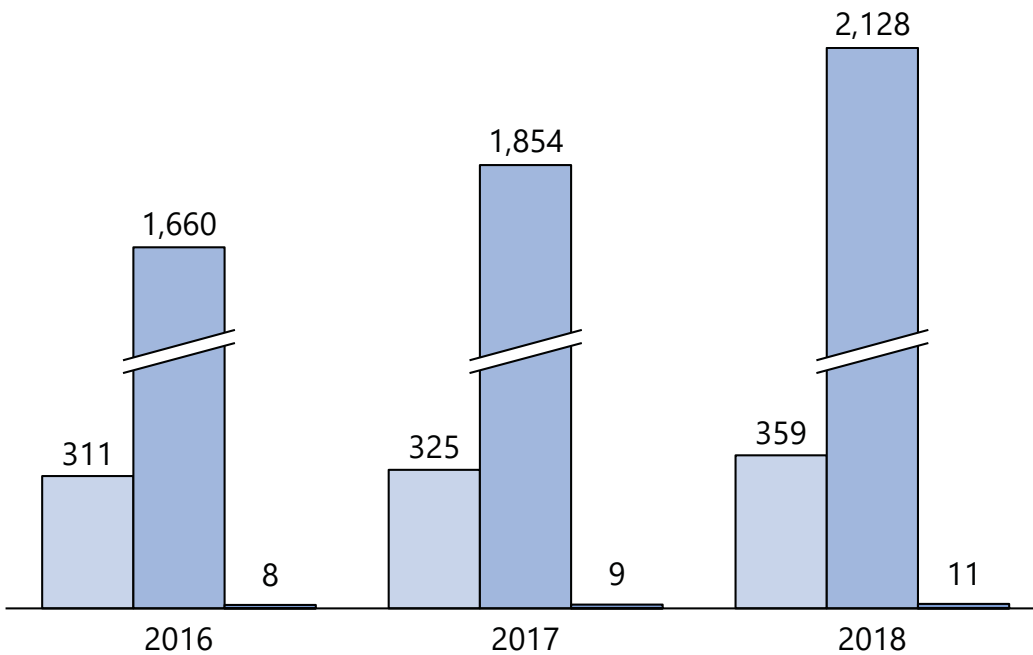
# COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

## 加工食品、冷凍食品、有機食品の消費と輸出



### 加工食品、冷凍食品、有機食品の消費（百万ドル）

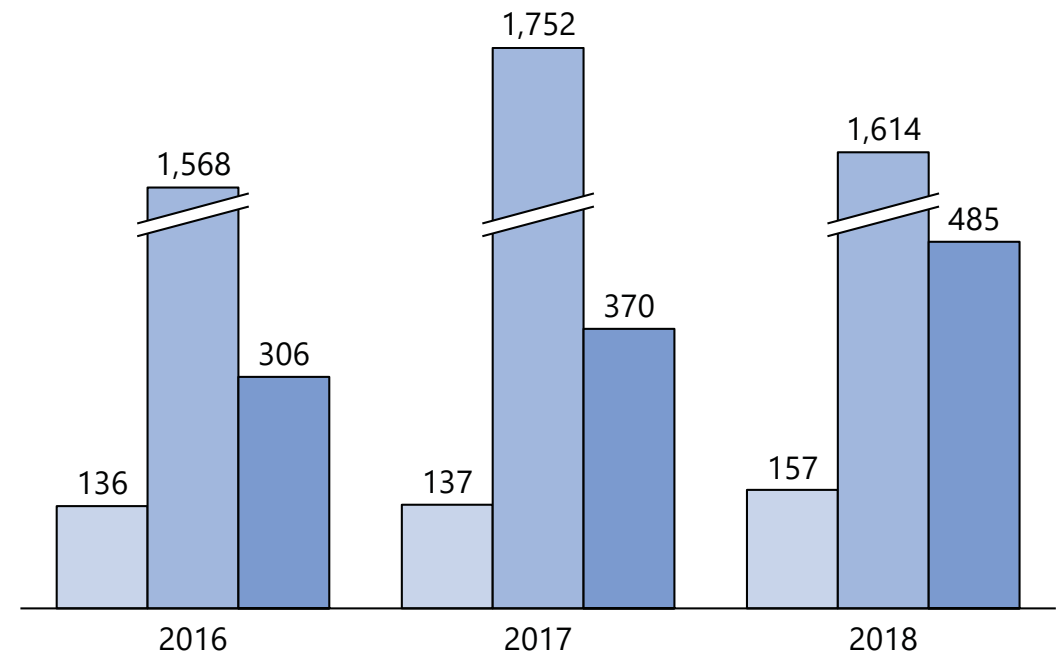
加工食品 冷凍食品 有機食品



- 全食品カテゴリで消費が増加
- 冷凍食品消費の大部分はアイスクリーム、ヨーグルト系の冷凍デザート  
健康意識の高まりとともに有機食品の消費が増加傾向
- 夏直前にロックダウンが始まり冷凍食品、特にアイスクリームの売上が減少
- 消費者は、家庭で消費するスナックをより大きなパックサイズにシフト

### 加工食品、冷凍食品、有機食品の輸出（百万ドル）

加工食品 冷凍食品 有機食品



- 加工食品産業は欧州・中東・アジアへのアクセスのよいインドの地理的位置に優位性を認め、輸出志向型
- 有機食品の輸出は増加傾向にあり、大豆種子と綿花のシェアが大半
- 伝統的な有機農法を活かした有機食品を提供
- 有機食品の貿易ではトレーサビリティ担保が必要。ロックダウンにより、農場以降のトレーサビリティ確認が不可に

小売・レストランの店舗数 (Unit)

小売・レストランの売上高 (百万ドル)

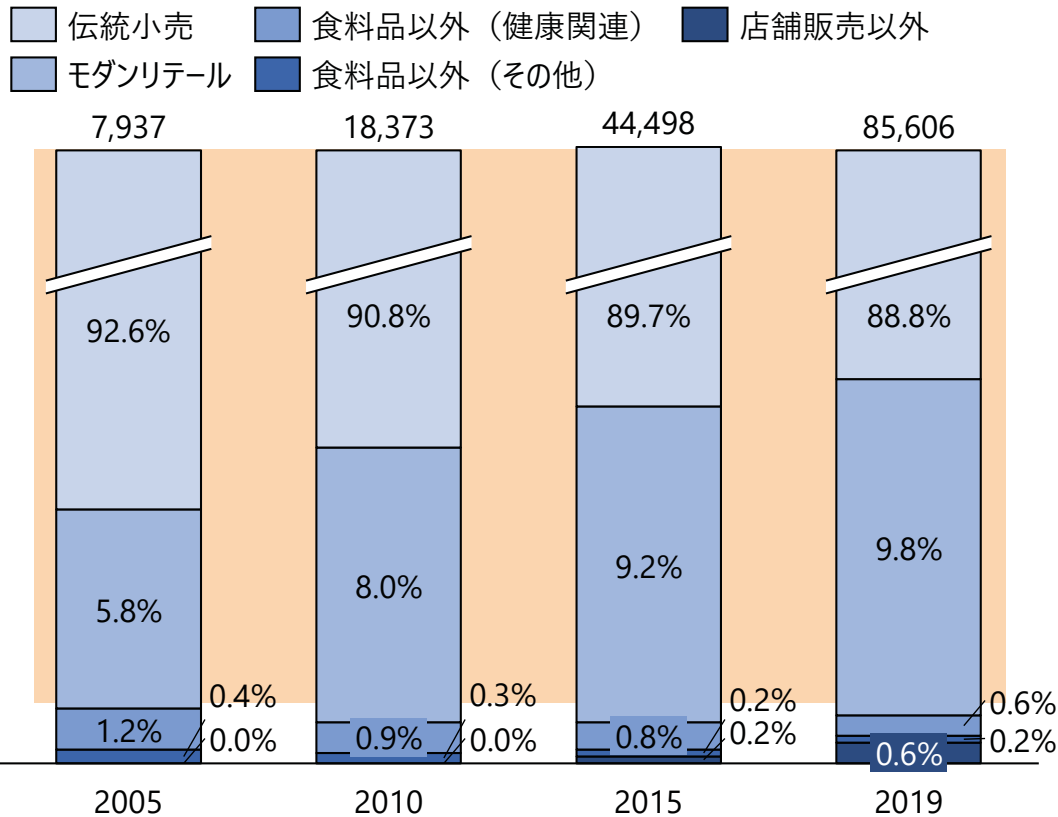
次回報告時に更新

- Aaa
- aaa
- aaa

- aaa
- aaa
- aaa

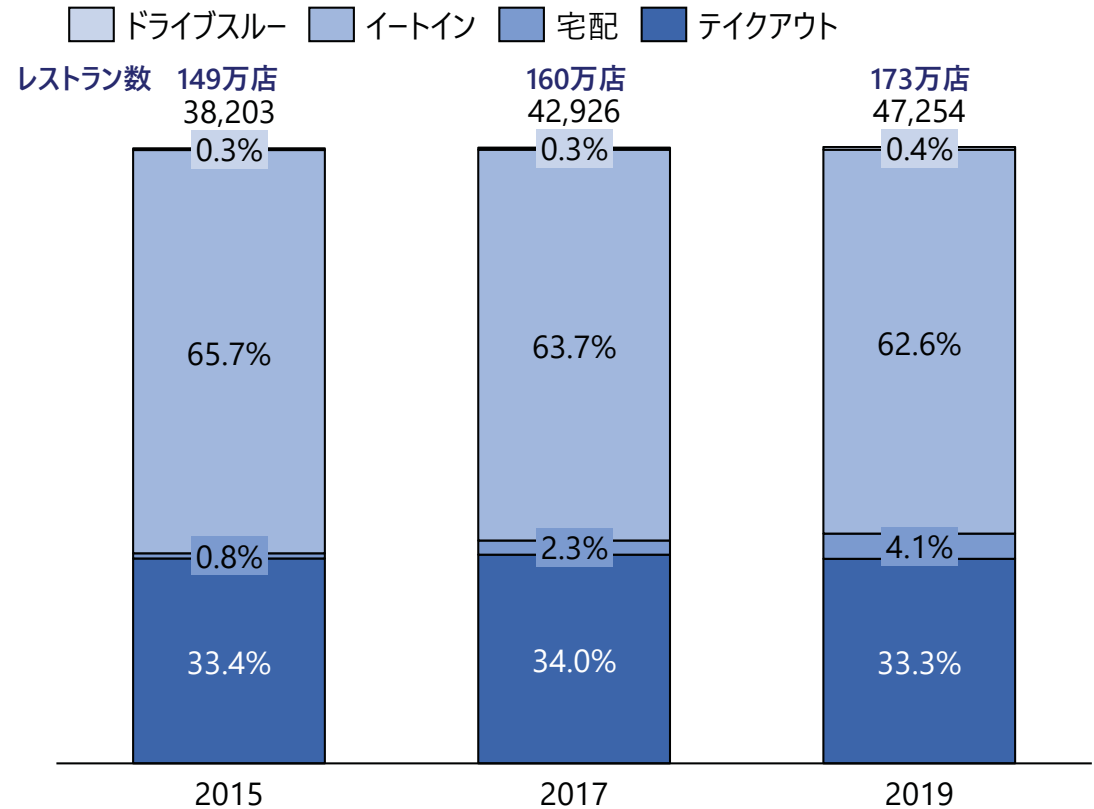
# 包装食品|モダンリテールのシェアが近年高まりつつあるものの、伝統小売が依然として約9割を占める 外食サービス| イートインとテイクアウトが95%以上を占める。宅配が徐々に浸透

包装食品の販売チャネル割合 (百万ドル)



- 包装食品の主要チャネルは伝統小売 (個人経営小売店、食品・飲料・タバコなどの専門店)
- モダンリテールへの関心は年々上昇
- 包装食品ではECなど店舗以外の販売チャネルはほとんど存在しないが最近ではCOVID-19やサービス提供者の浸透により普及

外食サービスの利用チャネル割合 (百万ドル)



- レストラン数は2019年時点で173万店。日本食レストランは約110店
- イートインとテイクアウトで外食シェアの約96%
- 過去5年間で宅配需要が徐々に増加
- インド全土でレストランの数は10%減少
- レストランは非接触の宅配やクラウドキッチンを開始

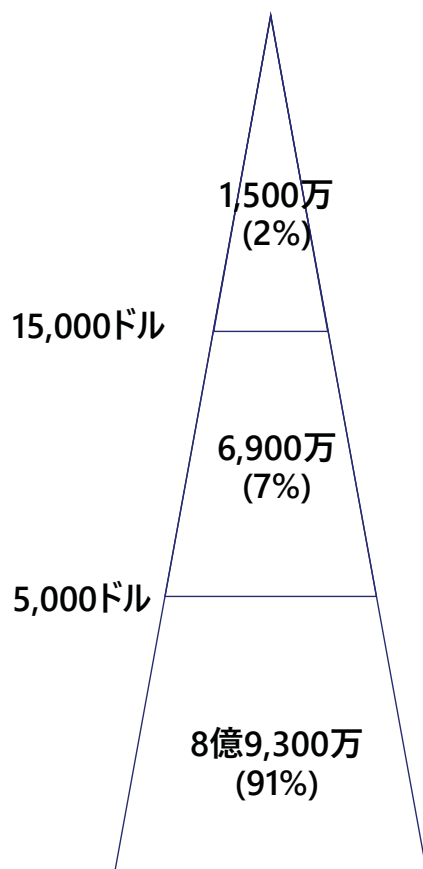


# 消費者マインド | 富裕層や中間層は食品デリバリーの利用が広まる 低所得層の消費はロックダウンによる収入への影響で食料品中心にシフト

## 所得別の消費者行動

年間所得別人口ピラミッド

(実質価格)



### 消費者マインド

- 富裕層の外食での支出は中間層のほぼ2倍
- 栄養強化食品、ケトン食、栄養補助食品などのウェルネス製品に傾倒

- 中所得ミレニアル世代は、映画等の他の娯楽への支出と比較して外食への支出は約3倍
- 外食や宅配注文はレジャー活動と同等の扱い

- 手頃な価格を嗜好
- 贅沢品（必要不可欠ではない製品）やサービスへ支出する際は主に口コミ（先行ユーザー、インフルエンサーの声・意見等）

### COVID-19の影響

- 富裕層は食品デリバリーを多用

- レストランが割引や安全な調理・配達のアピールを開始した後に、オンデマンドの食品デリバリーの利用が盛んに

- ロックダウンによる雇用や収入への影響により、消費は必要不可欠な食料品中心にシフト
- 殆どのレストランがオンライン対応できておらず、商品・サービスの周知が困難に

\*Note: 15歳以上の所得別人口を使用 (0-14歳の人口を除く)

Source: Euromonitor、ニュース記事

## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州
3. グジャラート州

### [補足] 全国

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## ロックダウンによりサプライチェーンの混乱、農家の収入減少が起こり農業資材に影響



## 農業資材への影響

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

Theme	Impact	Description
 種子	<b>③</b> ロックダウン中の売上高 15~20%減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流が制限されたため、遠隔地にある小規模農家には種子供給が遅延</li> <li>港、航空貨物、試験所の運営が制限されたため高品質の種子の輸入に影響。農家は低品質種子を止む無く使用</li> </ul>
 肥料	<b>① ② ③</b> ロックダウン期間(45日間) 肥料工場は50-70%の稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働力の不足により肥料工場は50~70%で稼働</li> <li>為替レートと輸送費の増加により、輸入肥料のコストが増加</li> <li>ロックダウン期間中、尿素が一時的に不足</li> </ul>
 農薬	<b>②</b> 輸入減少による在庫不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な輸入元である中国からの輸入が減り、在庫が不足</li> <li>インプットをトレーダーに依存している地方の調合師は材料不足に悩む</li> </ul>
 農業機械	<b>③</b> 農家のクレジット利用の 低下による売上減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドのトラクターの95%がクレジットで購入されている。農家にクレジットを提供するトラクターディーラーや金融機関がロックダウンで閉鎖し、農家の売上が減少</li> <li>一方、農業のピークである雨期*の労働力不足により、農家は代替手段として機械化を模索</li> </ul>
 灌漑	<b>②</b> マイクロ灌漑システムの設置 40%以上縮小 (ハリフシーズン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の制限により、機械のタイムリーな配送とマイクロ灌漑システムの設置が遅延</li> <li>Pradhan Mantri Krishi Sinchayee Yojana (PMKSY) スキームに沿った年間行動計画がない場合、短期的に50%縮小する見込み</li> </ul>



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

# 主要作物の国内需要・輸出は、ロックダウンの影響を受ける中、 有機食品は健康志向により需要が増加

### 農業生産への影響

  顕在課題

  潜在課題






課題分類

1 ヒト

2 モノ

3 カネ

4 データ

Theme	Impact	Description
 米	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">2</span> 労働力不足と輸送制限による米の輸出の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>パンジャブとハリヤナはインド全体の米生産に約15%貢献</li> <li>精米はロックダウン中も許可されていたものの、労働力不足と輸送制限により米の供給に影響</li> <li>サプライチェーンの乱れによる3月、4月のバスマティ米の輸出の遅れ</li> </ul>
 トウモロコシ	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">2</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">3</span> 家畜飼料産業の生産・販売減でトウモロコシの販売価格が下落	<ul style="list-style-type: none"> <li>トウモロコシ生産の約80%が動物飼料産業による消費</li> <li>ロックダウン中における家畜飼料の生産・販売の減少がトウモロコシの販売価格に影響</li> <li>ロックダウン期間中、トウモロコシの価格は19~20ルピー-(*)/ kgから11~12ルピー- / kgに下落</li> </ul>
 油糧種子（大豆）	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">3</span> 家禽・養殖産業からの需要の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>油糧種子の主要な利用者である家禽産業の稼働率が従来の30~35%に、水産養殖産業のそれが70%に低下</li> <li>ロックダウン中に大豆の需要は約50%減少（参考：2019年の大豆生産総量は約850万トン）</li> <li>ロックダウン中に大豆の価格が38ルピー- / kgから32ルピー- / kgに下落</li> </ul>
 家禽肉	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">2</span> 消費者需要の低下で家禽産業に損失	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウン期間中、肉の消費によるウイルスの蔓延の噂が広まったことに牽引され需要が減少。家禽産業の損失額は2020年4月末時点で2,700億ルピー</li> <li>専門家談   3月における養殖産業のコスト構造。価格が10~25ルピー-/kg、生産コストは70~80ルピー-/kg</li> </ul>
 有機食品	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">1</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">2</span> 労働力不足と輸送制限による供給の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>農場の労働力不足と輸送制限により、生産と供給に影響</li> <li>一方、健康志向により消費者が種子、ハーブ、ウコン、シヨウガなどの有機食品を求めようになり、有機食品会社ではロックダウン期間中に需要、オンライン販売が増加</li> </ul>

(\*): 1ルピー = 約0.013ドル

Source: FICCI, Hindu BusinessLine, ニュース記事

## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

# サプライチェーンが機能せず、ロックダウン中に倉庫（冷蔵含む）の利用が増加 自動化やデジタル化の遅れの課題も顕在化

### 保管&運送への影響

■ 顕在課題

■ 潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

②

#### 倉庫需要増加への対応

- 倉庫の需要は急速に高まり、キャリーオーバー在庫とロックダウン中の小売や輸出などサプライチェーンの混乱により、多くの倉庫がフル稼働状態
- 腐りやすい果物や野菜、加工食品の生産者からの冷蔵需要の増加

② ④

#### 自動化・デジタル化の遅れ

- 自動化やテクノロジー利用がされておらず、労働力不足によりロックダウン中のオペレーションが混乱

① ③

#### 労働力不足によるコスト増

- ロックダウン中のトラック運転手の不足により、全セクターの物流コストが20～40%増加
- サプライチェーンの仲介者とトレーダーが負担するコストが増加したため、一部の食品の小売価格と卸売価格が上昇



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

食品加工においては、労働力不足と原材料の価格変動という供給側の制約に直面、FMCG(食料・日用品)企業は、消費者の需要の変化に応じて新たな製品の提供を開始

### 食品加工への影響

■ 顕在課題

■ 潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

Theme	Impact	Description
供給側	① ③ 原材料の価格変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工は必要最低限のサービスのカテゴリーに分類（ロックダウン対象外）。一方、サプライチェーンの混乱による原材料の値上がりが発生</li> </ul>
	① 労働力不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>往來の制限と労働者の引き揚げ（故郷への回帰）によりマンゴー、シーフードなどの季節産業にインパクト</li> <li>専門家によると、主要な食品加工会社は、労働力不足のためロックダウンの初期の期間中15～20%で稼働</li> </ul>
需要側	② 特定の食品カテゴリーに対する需要の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19と動物の関係性についてのデマにより家禽、食肉産業の損失が発生。COVID-19の発生源として鶏肉と卵に関する誤った認識が広がり、家禽産業に打撃</li> <li>米国、ヨーロッパ、中国からの輸出需要の減少により、茶、スパイス、シーフード加工の企業に打撃</li> </ul>
	② 新製品カテゴリー導入への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の間で健康増進・免疫力強化の製品への選好が高まり、FMCG企業は新製品を提供を開始 <ul style="list-style-type: none"> <li>Marico（インドの日用品製造企業）は野菜の洗浄に使える商品「ベジクリーン」を発売</li> <li>Dabur（インドの日用品製造企業）は免疫強化製品を発売する計画</li> </ul> </li> </ul>



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

ロックダウンによりオムニチャンネルとハイパーローカル(地域密着)志向への急なシフトが起こり、オンラインでの小売チャンネルを利用した販売量が増加

### 卸・小売への影響



顕在課題



潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

①

ソーシャルディスタンスや非接触対応の困難

- 魚市場では物理的な距離を取ることが難しく、消費者は安全な販売店での購買を選択
- ホテルでは、物理的な接触を最小限に抑えるために当面ビュッフェサービスが停止され、メニューも限定

①

労働力損失

- ロックダウンにより多くのブティックホテルは開業できず、スタッフを解雇

③

収入減と支出増による閉業

- 多くの高級コーヒーショップは利用者減少と高賃料を危惧し、ロックダウン後の事業再開を断念



## COVID-19により顕在化したFVCの課題

# COVID-19によりインドの消費者行動はオンライン中心に変化 デジタル化への対応が必要

### 消費への影響

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

4

#### デジタル化への対応

- 多くのレストランがオンライン販売に対応した一方、オンライン注文に必要なスマートフォンやデジタルリテラシーを持っていない消費者も多数存在

### COVID-19下のインドの消費者

#### What?

購入した製品とSKU

- 必須食料品および消毒剤、即席めん、ビスケット
- 2019年と比較して、3月の月次大型パック販売が20%増加

- ✓ 店舗やオンラインでの食料品のカード取引が12%から50%に増加
- ✓ 以下のモバイルウォレット各社は、3月24~4月23日に50%前後の高い成長率を達成：

#### How?

支払い方法と頻度

- Amazon, Big basket, Swiggy, 1MGがCODの受け入れを停止-販売量の40%
- 最初の週の買いだめでデジタルトランザクション量が20%増加

66%

63%

43%



#### Where?

購入チャネル

- ECマースの閉鎖により、キラナ店の売上が増加
- ロックダウン中は電子食料品プラットフォームから注文

3倍 ロックダウンの最初の2週間でBigBasketとGrofersの注文が3倍に増加

2倍 ロックダウンから1か月以内で地元のキラナショップの売上が2倍に増加



## 3. インド

1. デリー首都圏（含デリー連邦直轄領）
2. ウッタル・プラデシュ州
3. グジャラート州

### [補足] 全国

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

### 3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 制限緩和

# ロックダウンは段階的に緩和、州間移動や商業施設も再開

### COVID-19による制限

### 現状（10月20日時点）

移動	国内移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月25日、国内線航空便を停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階的に運航が再開</li> </ul>
	国際移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際線運航停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階的に運航が再開</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月25日から21日間、インド全土でのロックダウンを発令</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染状況に応じて州ごとにロックダウンを実施</li> <li>ロックダウン対象日のみ、6AM～10PMまで外出禁止</li> <li>州間移動を緩和</li> </ul>
営業	農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>州間移動制限による労働者の移動制限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>州間移動を許可</li> </ul>
	保管・運送	<ul style="list-style-type: none"> <li>州間移動制限によるトラック等の移動制限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月15日より感染地域外の企業間取引を行うビジネスセンターが営業再開</li> </ul>
	加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>州間移動制限による労働者の移動制限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>州間移動を許可</li> </ul>
	小売、消費	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月21日、一部の州でレストラン店内での飲食禁止</li> <li>3月23日、公共交通機関の停止、生活必需品・サービスを除く店舗・商業施設・サービス等の活動凍結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月15日より感染地域外の映画館やレジャー施設を段階的に営業再開</li> <li>メトロ（地下鉄）運転再開</li> </ul>



overall

## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

政府は、3月発表の経済刺激策において、  
農家への直接資金提供・農作物保険料の緩和・農業ローンの条件緩和などの支援策を実施

### ロックダウン前の経済刺激策

対象	施策	概要	インパクト
農家	農家向け資金援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家の銀行口座に2,000ルピーを送金するスキーム</li> <li>2020年3月~6月の間に合計1,800億ルピー(*)の送金実施</li> </ul>	<p>農業生産</p> <p>農家の運転資金増加</p>
農家	農作物保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家の要求に応じて実施されたスキーム</li> <li>東北州の農家に対する保険料補助金の政府負担率を50%から90%に引き上げ</li> </ul>	<p>農業生産</p> <p>農業活動促進</p>
農家	農家のローン条件緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>RBI(インド準備銀行) は農業用タームローン・農作物ローンに3か月間のモトリアムを付与(2020年5月31日まで)</li> <li>支払実績のある借り手には、30万ルピーまでの農作物ローンの金利を3%優遇</li> </ul>	<p>農業生産</p> <p>農家の運転資金増加</p>

(\*): 1ルピー = 約0.013ドル

Source: FICCI, ニュース記事



overall

## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

# COVIDの危機に対処するため、インド政府は農業セクターに対して広範な経済刺激策を発表

### Atmanirbhar Bharat Abhiyan (自立するインド) における経済刺激

対象	施策	概要	インパクト
農家	小規模・零細農家向け融資枠	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年5月から6月にかけて、小規模・零細農家の収穫後の季節要の緊急運転資金として3,000億ルピー(*)を提供</li> <li>2,500万人の農家に対して、優遇金利で利用可能なクレジットカードを提供</li> </ul>	<b>農業生産</b> 農家の運転資金増加
農家	畜産	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020-21年度に、日用品協同組合に対して年率2%の利息減免を提供する新しいスキームを導入。2,000万人の酪農家に500億ルピーの流動性支援を提供</li> <li>乳製品加工、付加価値向上、牛の飼料インフラへの投資を目的に、1,500億ルピーの畜産インフラ開発基金設立</li> </ul>	<b>農業生産</b> 農家の運転資金増加
農家	漁業	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋、内陸漁業、水産養殖の活動のため1,100億ルピー、漁港やコールドチェーンなどのインフラを構築するため900億ルピーを配分</li> <li>エビの稚魚の輸入について、衛生輸入許可証(SIP)の有効期間を3ヶ月延長</li> </ul>	<b>農業生産</b> エビ養殖拡大機会の増加
農家	フルーツ・野菜	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018-19年度に発令した支援策“Operation Green”の対象をトマト・じゃがいも・玉ねぎからすべてのフルーツ・野菜に拡大。ロックダウンによるサプライチェーンの混乱対策として50億ルピー、生産地から消費地への輸送に対して50%の補助金を提供</li> <li>今後2年で100万ヘクタールのハーブ栽培を対象に400億ルピーを提供</li> </ul>	<b>生産、運送</b> 農家、運送業者の運転資金増加
農家	インフラ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業組合、農作物生産組織、アグリスタートアップへの資金提供を目的として、1兆ルピー規模の農業インフラ開発基金を設立</li> <li>FSSAI* 食品基準要件の取得、ブランド構築、製品販売のための技術向上を目的として20万の零細食品企業に対して1,000億ルピーを提供</li> </ul>	<b>農業生産</b> スタートアップの活動機会の増加
FVC全体	規制変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資誘致・農業部門の競争力を高め農産物価格を改善するため重要物資法(1955年)を改正</li> <li>農産物を適正価格で販売するため、農業マーケティングに関する法律を改正</li> <li>農家が農業SC関係者とフェア取引ができるような法的枠組みを整備する計画</li> </ul>	<b>全体</b> 企業のFVC参入機会の増加

(\*)：1ルピー = 約0.013ドル

\*Note: FSSAI (Food Safety and Standards Authority of India)



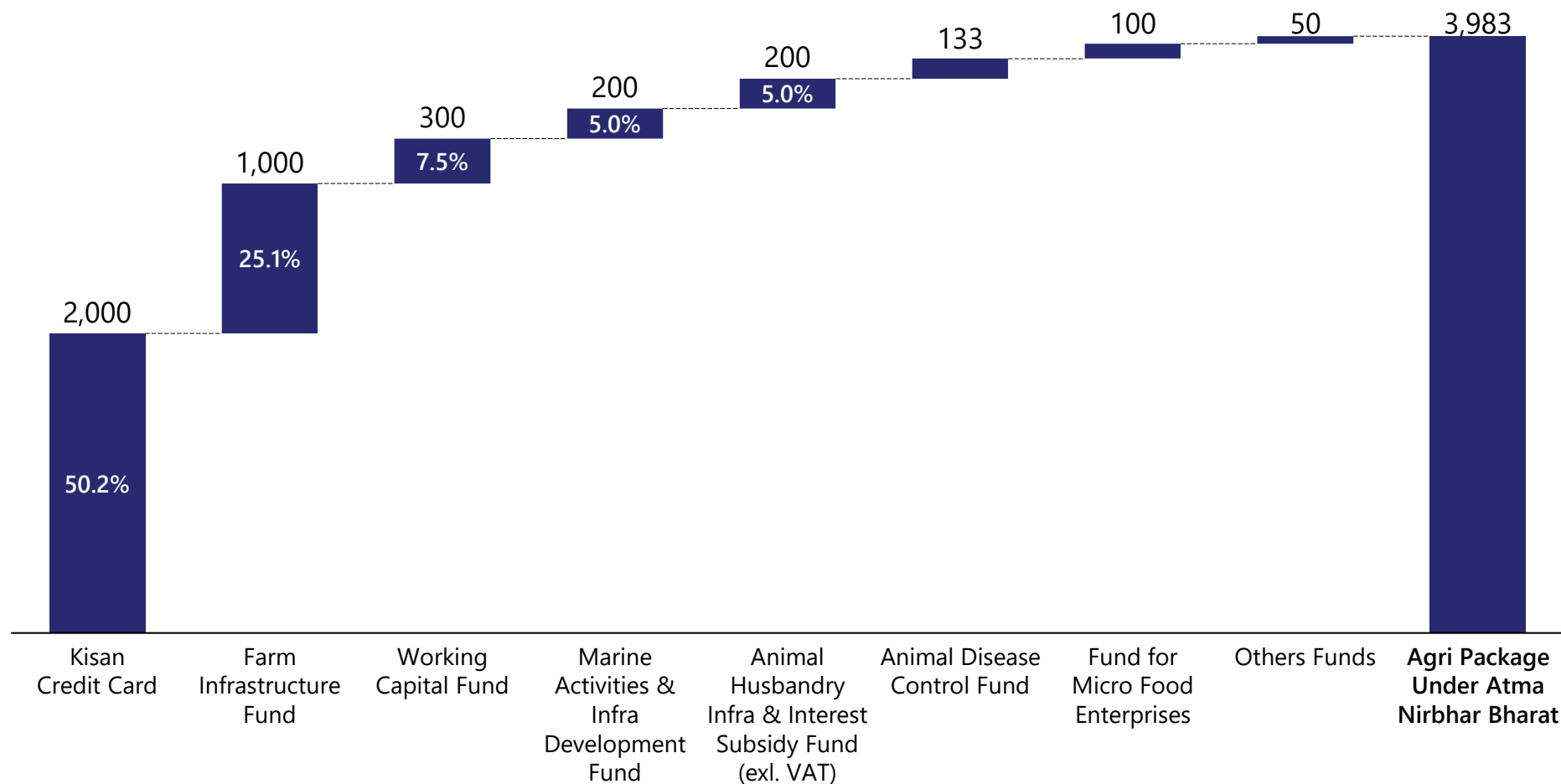
## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

# インド政府は経済刺激政策における予算のうち約50%を農家向け融資枠増額に割り当て

### Atmanirbhar Bharat Abhiyan (自立するインド) における予算合計金額

#### FVC Impact – 資材、生産

単位：10億ルピー





## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

# ロックダウン中の倉庫（冷蔵含む）の利用増加や運送のコスト増に対し 民間との連携促進策やコスト低減策を打ち出す

## 保管と運送への施策

### FVC Impact – 保管&運送

#### 倉庫保管および冷蔵

- 倉庫の需要は急速に高まり、キャリーオーバー在庫とロックダウン中の小売や輸出などサプライチェーンの混乱により、多くの倉庫がフル稼働状態に
- 腐りやすい果物や野菜を取り扱う業者、加工食品業者からの冷蔵需要の増加
- 自動化やテクノロジー利用がされておらず、労働力不足によりロックダウン中のオペレーションに打撃

### COVID-19 による影響

- 政府は倉庫に合法的な販売ステータスを付与することで倉庫での売買を可能にし、伝統的なマンディ（農産物市場）を使用する際に発生する輸送コストを削減
- インド商工会議所（FICCI : Federation of Indian Chambers of Commerce & Industry）は、全国の小規模な冷蔵倉庫のネットワークを構築するため、民間企業を巻き込むべきだと主張

### 政府の対応

#### 運送

- 専門家によると、ロックダウン中のトラック運転手の不足により、全セクターの物流コストが20～40%増加
- これにより、サプライチェーンの仲介者とトレーダーが負担するコストが増加したため、一部の食品の小売価格と卸売価格が上昇

- 政府は州間および州内の物品と人の移動をなくすよう州に指示
- インド商工会議所は、特に冷蔵施設が利用できない農村部や半都市部で、冷凍トラックの容量を拡大するよう民間の運送会社にインセンティブを与えるべきだと主張

#### マンディ（市場）と政府の分担

- ロックダウン中、多くのマンディ（農産物市場）が活動を停止したため、農家からの調達が停止され、農産物ロス、農家収入減が発生
- 政府による公共配電システムの利用率は、ロックダウン中に農村部で約65%増加
- 農村地域で、特に移民労働者の失業数が増加するにつれて、公共流通システムへの依存は今後数か月で増加する可能性



## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

# 日用品製造・販売を行うDabur、ハイパーマーケットチェーンのD-martはオンラインを使用した宅配サービスを開始

## チャンネル拡大への対応

農業資材

農業生産

保管 &amp; 運送

加工

卸・小売

消費

## Direct-to-home

社会的距離と行列の回避の意識の高まりが、宅配やデジタルショッピングの推進へつながる

## Industry Movements

### ハイパーローカル デリバリー



- Ninjacart、Dmart、地元の零細小売店「キラナショップ」らが宅配を開始
- Instacart、Walmart Groceryの1日のダウンロード数は、3月に218%と米国の2月と比較して160%増加
- 3月の“grocery delivery near me”の検索は**550%**増加

### オムニチャネル



- Big Basket、Grofers - ロックダウン2.0の**3週間で需要が3倍に増加**
- Travel start-ups – Uber、Rapido がラストマイル配送で活躍
- カーブサイドデリバリーや非接触型配送、オンラインで購入して店舗で受け取る（BOPIS）オプションの登場



## Key Imperatives



Virtual Shelf  
space

物理的な棚スペースと仮想的な棚スペースの両方に着目。店内の広告をオンラインストアでの商品のリステイングでも模倣



Direct 2  
customer

サプライチェーンの格差を埋めるべく、ラストマイル配送を行う新興企業との提携を実施



Locate & buy

小売業者/ E-Tailer業者の商品の入手可否を取得したり、利用可能なプラットフォームにユーザーをナビゲート

## Market Moves



Daburは、住宅福祉協会との協力のもと、注文を処理し顧客に直接配送する取り組みを実施

D-martは、顧客がトラックの中から購入したり、宅配用にオンラインで注文したりできる store-on-wheels の取り組みを実施



overall

## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

# ウォルマート財団は農家の生活向上のため、NGOを通じて総額450万ドルを寄付。 市場アクセス改善や女性農家の収益性強化に貢献

## 農家支援

農業資材

農業生産

保管&amp;運送

加工

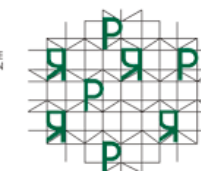
卸・小売

消費

- ウォルマート財団はパンデミックからの農家の生活向上のため総額450万ドルを寄付
- 寄付金は2つのNGO団体、TanagerとPRADAN向けに提供。NGOは農民生産者組織（FPO）を通じて農家へ寄付金や寄付金を使用した支援を提供
- Tanagerは寄付金の260万ドルを使用し、アンドラプラデシュ州の農家を支援。COVID-19期間中の農家の市場へのアクセスや作物/収入の流れを改善する試みの他、農家の知識・リソース増強へ投資
- PRADANは寄付金の190万ドルを使用し、西ベンガル州、オリッサ州などで市場アクセス改善と女性のエンパワーメントを通じた生計向上プログラムを開始。農家の女性が収益性の高い農業関連事業に携わるよう支援



tanager  
an ACDI/VOCA affiliate



ウォルマート財団は、FPOを通じて農家を支援



The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right. The bottom swoosh is a solid blue bar.

***Share the Next Values!***